

日病薬の最近の動き(25)

編集委員会の活動と今後の方針

日本病院薬剤師会雑誌編集委員会
委員長 山田 勝士

1. 日病薬誌の概略と方針

現在の日本病院薬剤師会雑誌（以下、日病薬誌）の概略と編集委員会の方針等について述べます。

本誌編集委員会は年4回開催され、特に9月に開催される委員会は各ブロック代表の委員を含めた地域編集委員会として開催されます。編集委員会は医療薬剤業務の高度化と時代の流れに対応するため、内容の更なる充実と情報の迅速化に取り組んでいます。また、本誌の重要な使命の1つである会員への情報伝達媒体として、日本病院薬剤師会（以下、日病薬）の諸問題に対する取り組みの状況や各種委員会の活動報告などを会員の方々へお知らせしています。さらに、会員の研究発表の場として、大病院だけでなく中小の一般病院からの論文投稿の推進と掲載にも積極的に取り組んでいます。以上のような方針の下、読みやすい会誌となるように掲載内容を検討するとともに、構成や体裁なども改訂を重ねてきました。

2. 掲載項目

毎号の巻頭言は日病薬理事並びに都道府県病院薬剤師会の会長にお願いしています。目次は一見して内容がわかるように見開きにし、掲載項目として、総説、特集、シリーズ、論文、学会報告、活動報告、研修報告、新薬の紹介、話題のくすり、新刊紹介、Do you know、最新の文献情報より、FIPニュースレター、告知板、日本薬剤師研修センターからのお知らせ、お知らせ、資料、ブロックのページ、各病薬だより、日病薬だより、あの町・この町・私の町、連盟のページ、学会・研究会・研修会案内、医薬品・医療用具等安全性情報、投稿規定、後記、ラジオNIKKEIの各項目を取り上げています。平成16年1月号からは本誌の大きさを従来のB5版からA4版へ改変し、表紙面には、巻頭言、総説、特集、シリーズ、活動報告、話題のくすりなどの主要な項目のタイトルを掲載するようにしました。また最近では、海外誌に投稿する際日病薬誌に掲載された論文を引用することがあるとの意見があり、引用時の本誌略記名をJ. Jpn. Soc. Hosp. Pharm.とすることにしました。同時に、論文要旨も合わせて掲載するよう投稿規定を改変し、論文タイトル、著者名並びに所属に関しては日本語と合わせて英語表記をすることにしました。

3. 創刊40周年座談会

日病薬誌は昭和40年に創刊され、平成17年で40周年を迎えます。現在、日病薬の会員は約36,000人であり、最近では若い世代の会員が増えています。日病薬誌がどのような生い立ちで、どのような経過を辿ってきたのか、今一度、会員の方々によく知っていただきたいとの思いから、また、この40年の歩みを記録に留め置く必要性から、平成16年8月に日病薬誌創刊40周年記念座談会を開催しました。その時の座談会の内容を本誌の平成16年12月号に掲載しています。若い会員の方々には、是非その記事を読んでいただき、日病薬誌40年の歩みを知っていただきたいと思います。

4. 日病薬創立50周年記念シリーズ

日病薬はさらに遡って昭和30年に創立され、今年で50周年を迎えます。平成17年10月には創立50周年記念式典が開催されますが、日病薬誌でも平成16年1月号から「日本病院薬剤師会創立50周年記念シリーズ」と題して、日病薬の歴代会長や名誉会員の方々にご執筆をお願いし、日病薬50年の歩みに関する様々な経緯や思い出話を寄稿していただきました。今年は「日本病院薬剤師会の歴史概説」に関する記事掲載を日病薬五十年史編集委員会に依頼しています。会員の方々には、日病薬がどのような経緯で創立されたのか、また、日本の医療においてどのような役割を果たしてきたのか、本誌を通してご理解いただけたらと思います。

5. 最近の話題掲載

日病薬誌は会員の情報誌としての使命があり、その特色を生かしてゆかねばなりません。例えば、薬学教育6年制関連法案の成立に向けて日病薬がいかに積極的に取り組んできたか、その経緯について様々な局面から掲載してきました。これからも薬学教育モデル・コアカリキュラムや長期実務実習制度、薬剤師業務における個人情報保護、さらに当面の大きな問題である病院薬剤師配置基準の見直しなど、その時に即した話題を掲載していく予定です。特に、他の情報伝達媒体からは得られない日病薬の考え方や方針について、会員の方々にお知らせしていくことが本誌の役割であると考えています。

6. 日病薬の最近の動き：委員会活動報告

理事会や代議委員会等の議事録および各種の委員会活動等に関しては「日病薬だより」として掲載してきましたが、ボリュームがあり、なかなか要点を捉えがたいとの意見がありました。そこで昨年7、8、11月号では全田 浩会長に「日病薬の最近の動き」についてわかりやすくご執筆いただきました。さらに先の理事会で、各種委員会の重点項目についての要点を委員長に執筆いただき、最初のとじこみに掲載するように決定いたしました。平成17年1月号には会員委員会（長舩芳和委員長）、2月号に学術委員会（佐藤 博委員長）、3月号に薬剤業務委員会（佐藤秀昭委員長）からの最近の活動状況に関する報告を掲載しています。今後は日病薬の動きを会員の方々に、より理解していただけたらと思っております。

7. 論文審査体制と優秀論文表彰

昭和50年に原著論文雑誌「病院薬学」がスタートし、現在では日本医療薬学会の学術論文雑誌「医療薬学」となっています。近年、日本薬学会、医療薬学フォーラムなど色々な学会での病院薬剤師の演題発表が著しく増加しており、それに伴って本誌への論文投稿数も増えています。日病薬誌では、創刊号から「会員報告」として、そして平成13年度からは「論文」として毎月6～10編の一般学術論文を掲載してきました。受付から掲載までの期間は6ヵ月程度を維持していますが、「論文」審査体制の改善を目的に、平成16年度から教育や医療現場に精通している全国の大学病院薬剤部長並びに病院薬剤部出身の薬学部教授にもご参加いただき、審査の迅速化を図っています。ご協力いただいた審査員の方々にはご承諾をいただき、平成17年3月号に「審査員一覧」としてお名前を掲載させていただきました。平成16年には年間95編の論文を掲載しました。掲載論文の内容は、医療薬学関連文献検索システム

e-Motion： <http://www.sic.med.tohoku.ac.jp/pharm-db/index.html>

により閲覧が可能です。また、質の向上を願って、平成11年から優秀論文に対し学術奨励賞を授与してきました。表彰については論文投稿規定のページに記載しています。このように日病薬誌は今後も病院薬剤師業務にかかわる論文の掲載誌として、会員の方々に広く情報を提供できるよう取り組んでいきたいと考えています。

8. 検討事項

現在、編集委員会で検討を進めている主な懸案は、

- (1) 日本医療薬学会や医療薬学フォーラムなどの医療系学会等で優秀な内容の報告を行った発表者に、本誌への投稿を積極的に働きかける
 - (2) 現在、投稿規定として論文の筆頭著者は日病薬会員である必要がありますが、共著者に関しては規定されていません。そこで、今後共著者が病院・診療所等に勤務する薬剤師であり非会員である場合、増員対策のうえからも日病薬会員になっていただくよう積極的にお願いしていく
- の2点です。

編集委員会は、本誌が北海道から沖縄まで全国津々浦々の約36,000人の会員と日病薬の心のつながりを保つ絆であると考えています。そしてその責務は非常に大きいと感じています。IT時代と言われる現代において、インターネット経由で会員の方々に情報を配信するという考え方もありますが、「会員の一人一人が本誌を手に取り、ページをめくりながら記事を読み込んでいく」、これこそが会員と日病薬の心のつながりであり、心暖まる情報源であると信じて、日々活動しています。